

木造在来工法による 福祉施設②

保健・医療・福祉サービス研究会 医療福祉経営指導部建築コンサルタント
コスマプラン株式会社 二級建築士事務所 代表取締役

水野直樹
Naoki Mizuno



【木造在来工法の特養】

鋼材価格が高騰していた最中に特養の設計依頼が来た。依頼者は、茨城県常総市で保育園を運営している社会福祉法人「寿広福祉会」で、特養+ショート合計60人（個室ユニット）、デイサービス30人、地域解放スペース併設という内容だつた。当初は鉄骨造、RC造等の非木造で検討していたが、同じ時期に先行して着工していた鉄骨造の養護老人ホーム（ユニット型）が、北京オリソニックの影響で鋼材価格高騰

を賞賛する言葉をすらすらと気安く使つていて自分に呆れた。

【木造耐火建築】

特養が2階以上になると、ともあれ構造は「木造」に決定した。

【木造耐火建築】

建築基準法上「耐火1時間構造」が要求される（平屋建ての場合にはこの要求は無く準耐火構造でも可能になる）。従来、木造在来工法（軸組工法）による主要構造部を準耐火構造にすることは可能でも、耐火構造とすることは不可能だった。木



建築物の耐火性能の向上を目的に研究を重ねている（社日本木造住宅産業協会（木住協）は、性能評価試験を経て06年10月に大臣認定を取得した。この耐火構造の国土交通大臣認定により、木造在来工法による1時間耐火建造物の建設が可能になった。当初は京都の町並みを保存する目的もあって研究が始まったと聞く。

今回の特養は、この大臣認定を使用することになった。木造耐火建築については、ツーバイフオー等でも同様の認定を受けておりカナダ産材等の木材を使う

方法もあつたが、「地産地消」と啖呵を切つた都合上、何としても「日本全国、何處でも見かける木造在来工法」を選びたかった。この工法を簡単に説明すると、まず柱・梁等の主要構造は戸建住宅で一般的に使用する木材と全く同じである。

【変わる福祉建築】

筆者は設計に当たり、可能な限り木造を勧める。理由は、「人に優しく馴染みの工法で地域にも溶け込む」というのが最大の理由だが、昨今の福祉建築の置かれている経済状況により、建設費削減、工期短縮、短い原価償却期間（22年）等、が選定理由になる。尚、木造在来工法は地域によって建設費にかなり差が出る。都市では高く、地方では安くなる。これは地方では木造住宅が主流であることと、人件費に起因すると思われる。

以前、RC造の大規模特養で、施設にいると全く会話しない利用者の一人が、逆デイサービスで普通の民家に行くとカラオケを歌い。また、施設では一日中車椅子生活の利用者が、逆デイサービスで送迎車から車椅子ごと降ろされた後、民家の門

の影響をまともに受けたこと

もあり、かなり不安だった。またその時期は福祉施設の建設価格が全体的に高騰していた。鋼材の話になると「毎日価格が上がるのです」と、信じられない高額な価格が提示された時期だった。企画段階から投資額を抑える必要もあり、計画では規模はコンパクトに、単価は抑える、いわゆるローコスト設計が要求された。日々悩んだ末、「木造にする方法がありますが……」と恐る恐る理事長に電話すると、「いいです

よ。」と簡単に答えが返つてしまつた。考えてみると、法人が運営する保育園も木造で、園児達も木の香りの中で過ごしてい

ることを思い出した。「木造は人に優しいので大好きです。」と理事長が語り始めた。筆者もそれに便乗して、「本当に木造はいいですよね。利用者にも職員にも優しいし、地産地消になつて、地元の大工さんや職人さん達にも仕事ができて雇用促進にも貢献しますね。」と本来の「安くできる」という言葉を遠くに追いやつて、木造はいいですね。利用者にも職員にも優しいし、地産地消になつて、地元の大工さんや職人さん達にも仕事ができて雇用促進にも貢献しますね。」と理事長が語り始めた。筆者もそれに便乗して、「本当に木

